

5月定例記者会見の概要

- 1 日 時 令和7年5月9日（金）10時00分～11時00分
- 2 場 所 本庁舎3階 第一会議室
- 3 出席者 <報道機関>
 - ① 河北新報社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
 - ② 朝日新聞社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
 - ③ 読売新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
 - ④ 共同通信社 福島支局（南相馬記者クラブ会員）
 - ⑤ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
 - ⑥ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）
 - ⑦ NHK 南相馬報道室（南相馬記者クラブ会員）
 - ⑧ 福島中央テレビ（南相馬記者クラブ会員）
 - ⑨ 福島放送（南相馬記者クラブ会員）

計 9 社

< 市側 >

- ・市長・総務部長
(テレビ会議)
- ・新田副市長・常木副市長・小高区役所長
- ・鹿島区役所長・復興企画部長
- ・こども未来部長・商工観光部長
- ・商工観光部企業立地担当理事・農林水産部長
- ・農林水産部政策担当理事
- ・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計 14 人

(司会進行) 秘書課長
(会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

はじめに、国勢調査についてです。

今年、5年に1度の「国勢調査」が実施されます。国勢調査は、地域社会の現状を明らかにするもので、私たちの未来を見据えた政策立案に欠かせない、国の最も重要な統計調査です。

本市では、10月1日の基準日を迎える準備として、令和7年国勢調査南相馬市実施本部を設置し、4月14日に実施本部の看板掲示式を執り行いました。

調査の実施には、市民の皆様のご協力が不可欠です。手軽なオンライン回答も利用できますので、調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

次に、南相馬市協力防災士についてです。

市では、市民を対象に防災士養成講座を開催し、地域の自主的な防災活動や災害ボランティアセンターの活動などをサポートする人材を育成する「南相馬市協力防災士登録制度」を実施しています。

4月19日には、令和7年度の新たな協力防災士52人に登録証を交付し、本日時点で合計129人にご登録いただいています。協力防災士の皆様には、地域の防災講演会の講師や市の防災訓練への協力、また、災害時には、避難の呼びかけなどにご協力いただいております。

市においても、4月21日に災害対策本部員会議の開設訓練を行うとともに、地震・津波編の新たな防災マップを作成し、広報5月1日号などと合わせて全戸配布を行いました。

避難場所や避難経路を確認したり、家族や身近な人と災害が起こったらどうするか話し合ったりするなど、日頃から災害への備えを進めていただくようお願いします。

次に、キャンプ場の開設についてです。

市では、令和7年度も北泉海浜総合公園内にキャンプ場を開設します。4月22日から予約の受け付けを開始しており、営業期間は10月31日までです。ドッグランも通年で設置していますので、ペットも一緒に連れていくことができます。

ぜひご家族やご友人とご利用ください。

次に、クーリングシェルターについてです。

環境省が4月23日から、熱中症特別警戒アラートと熱中症警戒アラートの運用を開始したことにあわせて、市では、市内の公共施設21カ所に「クーリングシェルターみなみそうま」を開設しました。

開設期間は10月23日までです。体が暑さに慣れていないこの時期は、特に熱中症への注意が必要です。体調に異変を感じた時は無理をせず、クーリングシェルターみなみそうまをご利用ください。

次に、人工衛星とDXを活用した作付確認についてです。

市では、ランドインサイト社様と共に、人工衛星とDXを活用した農地の作付確認の業務改善を目指し、令和6年6月から4県22自治体と広域実証事業に取り組んできました。今般、実証結果がまとまったことから、4月30日に成果報告会を開催しました。当日は、広域実証に参加した22自治体のほか、デジタル庁や農林水産省、県の皆様にもご参加いただきました。

これまでの作付作物の確認作業は、8月の酷暑の中、地域の協力を得ながら、市内2千ヘクタールの農地を回り、目視確認するものでしたが、人工衛星の画像をAIで解析したことで、6割の業務負担軽減を図ることが可能となりました。

今回の結果を踏まえながら、引き続き、農家をはじめとした関係者の省力化などに努めてまいります。

次に、ゴールデンウィーク中のイベントについてです。

南相馬市サービスエリア利活用拠点施設「セデッテかしま」の10周年記念感謝祭が4月26・27の両日、開催されました。また、4月27日には、旧相馬中村藩の国歌として相馬野馬追で歌い継がれる民謡、「相馬流れ山」の全国大会がゆめはっとで開催されました。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、植樹祭についてです。

6月8日に「第13回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭」を原町区北泉地区の海岸防災林で開催いたします。

これまで約2万1千人の方に植樹にご協力いただき、累計で約21万4千本を植栽しました。今年も「いのちを守る緑の防災林」の実現を目指して、1,200人の参加者を募集し、1万5千本の苗木を植樹する予定です。

参加の申し込みは6月4日まで、市ホームページなどで受け付けております。ぜひご参加ください。

最後に、相馬野馬追執行委員長として申し上げます。

4月27日に相馬野馬追復興春季競馬大会、そして、5月3日の軍者会で肩章交付を終え、いよいよ相馬野馬追が近づいてまいりました。本年の出場騎馬数は本日5月9日時点で、昨年より6騎多い394騎となっております。また、本年から出場条件が緩和された女性騎馬武者については、初年度は40騎が出陣し、うち20歳以上が8騎出陣予定です。

JR東日本では今年も、東京駅発 原ノ町駅着 臨時列車の特急「相馬野馬追号」を運行する予定です。昨年より1便増え、2便が運転予定となっております。観覧チケットも大変好評で、特別席は完売している状況です。

開催日まで残すところ2週間となりました。市内外から足を運ばれる多くの方々に、戦国絵巻を思わせる騎馬武者の勇壮な姿をご覧いただけるよう、着実に準備を進め、地域の繁栄と安寧を願う相馬野馬追を盛大かつ安全に開催したいと考えています。

【質疑応答】

質問1：

相馬野馬追に出場する女性騎馬武者で、20歳以上の方のうち既婚者は何人でしょうか。

回答1：商工観光部長

未婚者・既婚者の数は把握しておりませんでした。

質問2：

女性の出場騎馬数が9騎増えたとのことですが、過去の統計データはありますか。

回答2：市長

年度別のデータは後ほどご提示します。

質問3：

今年の野馬追は歴史が変わる瞬間でもあるかと思います。女性の出場条件が撤廃された理由を改めて教えてください。

回答3：市長

性別や年齢、国籍等にとらわれない平等な社会を目指したことが撤廃の要因です。相馬野馬追は伝統的な侍文化を守り続ける一方で、時代に対応してきたからこそ今日まで残ってきたといえます。侍らしさは固く守りつつ、時代の流れに柔軟に対応するという関係者の思いがあって、この度の条件撤廃が実現したと思います。

質問4：

条件の撤廃を受けて、関係者を含めてどのようなことに期待していますか。

回答4：市長

積極的に何かを期待するというよりは、地域の平和と安寧を願う行事が地域に受け入れられていくために必要なことを行ったという感覚です。

質問5：

女性の騎馬武者を取材する中で、多くの喜びの声が上がっています。今回の相馬野馬追をどのような祭りにしていきたいと考えていますか。

回答5：市長

騎馬武者が出陣するためには家族や周りの支えが必要です。また、当日は神社関係者らを合わせると約千人規模の行列になります。

騎馬武者一人一人が誇りを持って出陣する行事ですので、騎馬武者の皆さんにはぜひ武具馬具の準備を怠りなく、それぞれの役割を果たしていただきたいと思います。

質問6：

観光客の方には、今年の野馬追をどのように楽しんでもらいたいでしょうか。

回答6：市長

震災や原発事故、新型コロナウイルスの感染流行があっても、相馬野馬追を継承したいという思いで行ってきました。一人一人が武士(もののふ)の心を持って臨んでいる大きな行事です。また騎馬武者を支える家族や地域の思い、加えて復興状況も見ていただけると嬉しく思います。ぜひお待ちしております。

質問7：

女性騎馬武者の出場条件の撤廃は、いつ頃から話があったのでしょうか。

回答7：商工観光部長

平成28年6月の執行委員会で、女性の出場条件を改めるべきではとの要請がありました。

令和7年2月の五郷騎馬会長会における検討結果として、継承という本質的価値を尊重し、武士らしさ、技術力、健康面、社会性等を勘案のうえ、各郷騎馬会で出場者の適性を判断していくものとしています。

質問 8 :

今年の出場騎馬数をどのように受け止めていますか。また、着替えの場所やトイレなど女性へ配慮している点があれば教えてください。

回答 8 : 市長

野馬追に出場するには乗馬技術が必要ですので、長い準備期間と周囲の協力が必要です。女性の騎馬武者に関する条件撤廃は先日決まったばかりですので、短い期間の中でよく出陣を決めていただいたと感じています。

全体の出場騎馬数についても、東日本大震災や新型コロナの影響で一時は300騎台まで減少しましたが、増加傾向にあり400騎まであと少しという段階です。

これまでも男女のトイレ等を準備してきましたので、今回新たに女性への特別な配慮をしたものはありませんが、開催後に反省点があれば改善を検討したいと考えています。

質問 9 :

前回の記者会見では、9人の女性騎馬武者から申し込みがあったと伺いましたが、お一人減ったのでしょうか。

回答 9 : 商工観光部長

騎馬会からそのように申し出がありました。

質問 10 :

女性騎馬武者の化粧については、各郷で判断するのでしょうか。

回答 10 : 市長

各郷で指導すると伺っています。

質問 11 :

8人の女性騎馬武者は、神旗争奪戦または甲冑競馬に出るのか、または両方に参加するのでしょうか。

回答 11 : 市長

行列への参加が出場の大前提です。その中で一部の方が甲冑競馬や神旗争奪戦に出ます。

質問 12 :

出場騎馬数について、全体では6騎、女性騎馬武者のみを見ると9騎増えていきます。この要因をどのように分析していますか。

回答 12 : 市長

男性の出場者が昨年と同じならば出場数が増えるはずですので、男性が少し減ったのかと思います。

この状況は現在の相馬野馬追の実態ともいえます。震災前は500騎前後が出場していました。震災や新型コロナの影響で減少し、一時戻りつつありましたが400騎を割っている状況です。初陣の方の動向などを見ると、出場数を増やすためには若い方や初陣の方を増やしていくことが必要と捉えています。

ただ、しっかりと騎馬文化を引き継いでこそ出られる行事ですので、頭数を増や

せばいいというものではないとも考えています。

質問 13 :

チケットの申し込み状況などを踏まえ、入込数をどの程度見込んでいますか。

回答 13 : 市長

昨年より増席した指定席券も売り切れたので、入込客は昨年よりさらに良い状況ではないかと考えています。

質問 14 :

前回の記者会見で除染土の再利用について「市民の理解はある程度進んでいる」と回答いただきました。その根拠として挙げた試験事業について、後日調べると、確かに試験事業は行われているのですが、実証事業は住民の反対によって頓挫しています。

改めて、過去の実証事業で住民から反対があったことを踏まえて、再利用はどのように考えていますか。また、実証事業をもう一度受け入れるということに対してはどのように考えていますか。

回答 14 : 市長

私が申し上げた「理解」とは「実証事業に対して賛成する」という意味合いではなく「放射能そのものに対する解釈や知識が、ほかの地区よりもある」ということを指していました。科学的に安全と理解しても、賛成するかどうかは別の問題と捉えています。

除染土の仮置き場を解消するため、本市では早い段階で除去土壌の利用に関する基準等を作っていました。中間貯蔵施設内にある土壌の再利用と当時とでは状況が異なりますので、0から検討する必要があると思います。

質問 15 :

今年配布した地震・津波編のハザードマップについて、前回との違いを教えてください。

回答 15 : 復興企画部長

前は地図のみでしたが冊子形式に変わりました。また、令和2年8月に県が新たな津波浸水の想定を出したことを踏まえて改正を行っています。

質問 16 :

今年の相馬野馬追で何が変わるのか、一言でお願いします。

回答 16 : 市長

相馬野馬追に対する思いは変わりませんが、去年から開催日程が変わり、爽やかな初夏の風の中で行列が見られるようになりました。また、未婚の20歳以下の女性に限るとしてきた条件が撤廃されました。時代に対応した新しい野馬追をご覧いただければうれしく思います。

質問 17 :

5月に県社会福祉協議会と南相馬市社会福祉協議会等が連携する「社協連携避難

者支援センター南相馬」が設置されました。どのようなことを期待しますか。

回答 17：市長

市内にはさまざまな避難者がいます。これまで複数の組織がそれぞれ支援が行ってきましたが、センターの設置によって避難者に関する情報が組織間で共有されることを期待しています。

以上